

(一般屋内用)

NDシリーズ用吊具

FYY80010 (端用) ・ FYY80011 (連結部用)

● 器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

施工説明

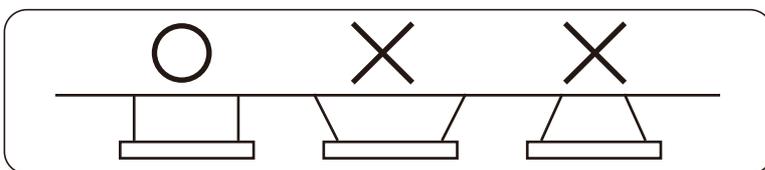
工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

安全に関するご注意

警告

- 施工は、施工説明にしたがい、確実に行う。施工に不備があると、落下・感電・火災の原因となります。
- 器具を改造しない。落下・感電・火災の原因となります。
- 傾斜天井・壁面への取付けはしない。落下の原因となります。
- 適合灯具以外使用しない。落下の原因となります。この吊具は、右の灯具と適合します。(灯具の取扱説明書または、カタログにて確かめる。)
- 2本吊専用ですので、1本吊はしない。落下の原因となります。
- 本体の取付ピッチは、灯具本体への吊具取付ピッチと合わせる。落下・灯具の傾きの原因となります。
- 開放廊下等、風の強い所では振れ止め処理を行なう。(振れ止め処理のワイヤー、金具は別途です。)落下の原因となります。
- 電源線の接続後の絶縁は確実に行う。感電・火災の原因となります。
- 単線とより線の直接接続(ねじり接続等)はしない。必ず専用工具で圧着すること。火災の原因となります。

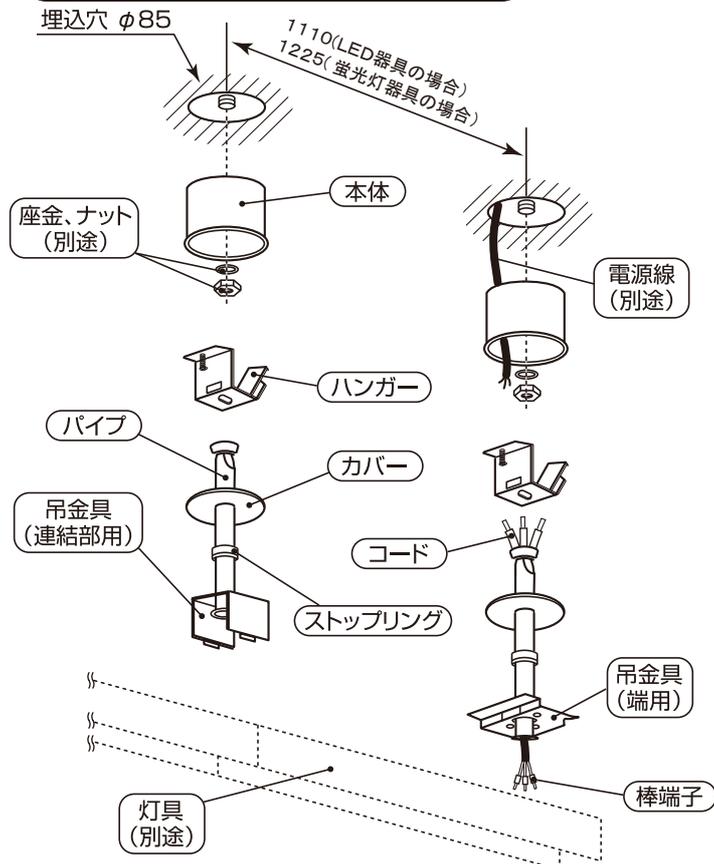
	単体用	連結端用	連結中用	器具区分
上下配光タイプ	FYY56010J FYY56013J	FYY56011J FYY56014J	FYY56012J FYY56015J	LED器具



注意

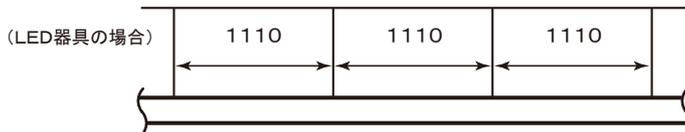
- 湿気が多い場所、振動の強い場所、雨水のかかる場所、腐食性ガスの発生する場所では使用しないでください。落下・感電・火災の原因となります。

各部のなまえと取付方法



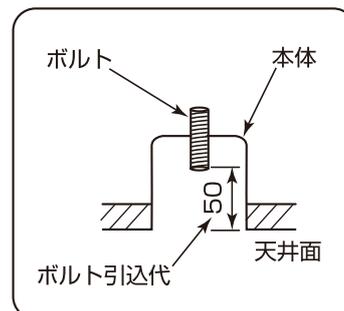
1. 取付け前の確認

- 器具質量 (FYY56010Jの場合：6.7kg) に十分に耐えるよう、取付部の強度を確保する。不備があると、器具落下の原因となります。
- 連結の場合、電源線の引込みは、端で行ってください。
- 同梱のコードの容量は7A以下です。これ以上の送りを行う場合は、器具外(天井裏等)で送り配線を行ってください。容量オーバーの場合、火災の原因となります。
- 連結した場合の吊具のピッチは次のとおりです。



2. 埋込穴の開口

- 埋込穴、取付ボルトを図のように用意しておく。

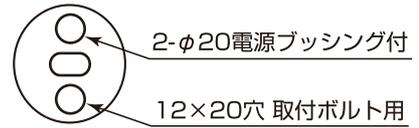


各部のなまえと取付方法 (続き)

3. 本体の取付け

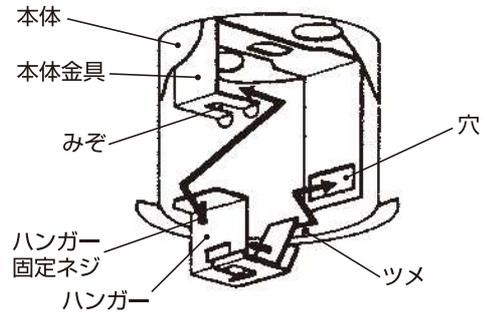
- 電源線、アース線を本体の電源穴から引き込んでおく。
- 本体をボルト (W3/8またはM10) にて確実に取付ける。
不備があると、器具落下の原因となります。

本体背面図

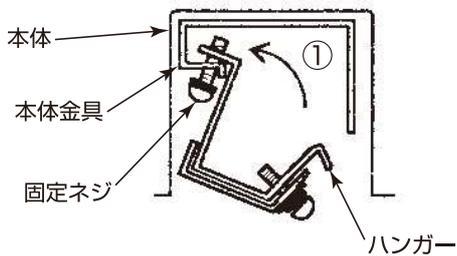


4. ハンガーの取付け

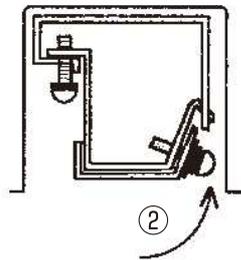
- ハンガー固定ネジを緩めておく。



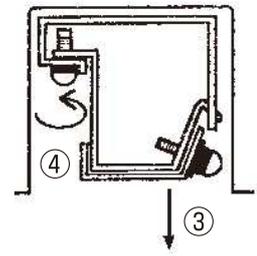
- 下図にしたがい、ハンガーを取付ける。



- ① 本体金具のみぞに沿って、ハンガーのネジ側を引っ掛ける。



- ② 本体金具の穴にハンガーのツメをカチッというまで押し込み引っ掛ける。



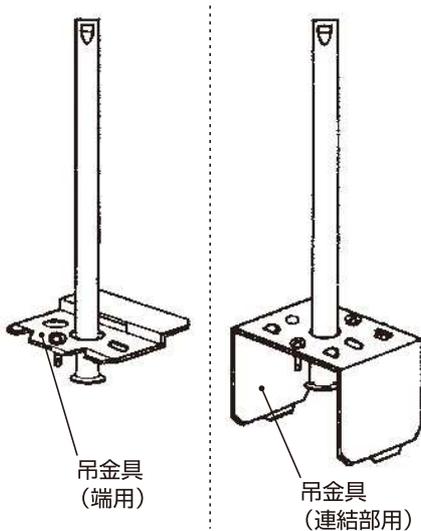
- ③ ハンガーを下に引きながら、④ 固定ネジを確実に締め付ける。

不備があると、器具落下の原因となります。

- 引込線は、電源穴からまっすぐに下ろし、線カミのないようにしてください。
不備があると、感電の原因となります。

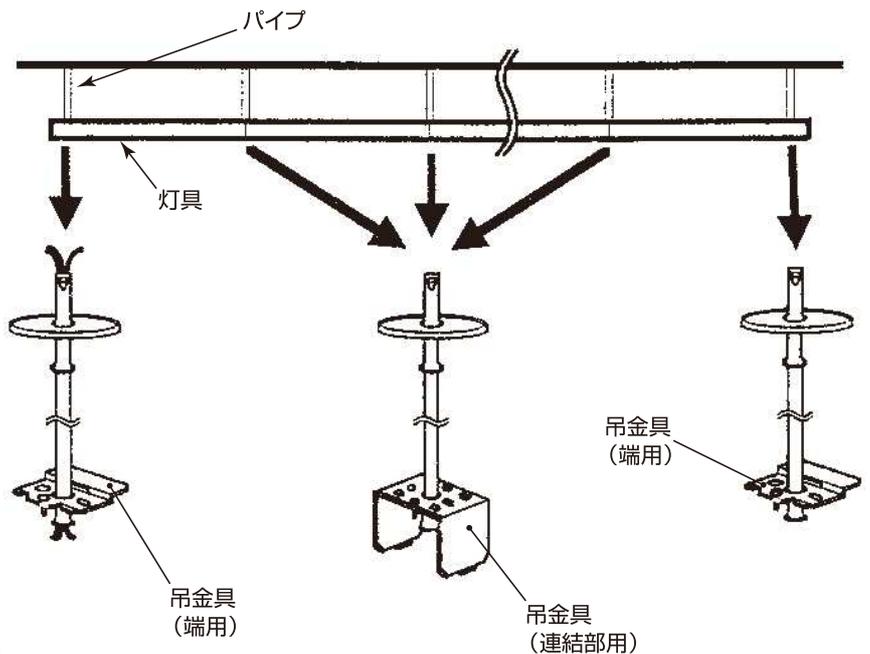
5. 吊金具の取付け

- パイプを吊金具の穴に差し込む。



- パイプにコード、アース線を通す。
- 吊金具を灯具に固定する。
(詳しくは、灯具の取扱説明書をご覧ください。)

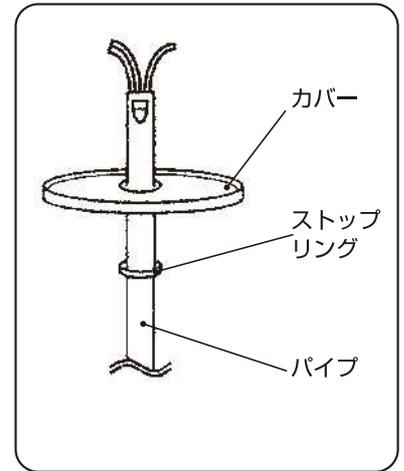
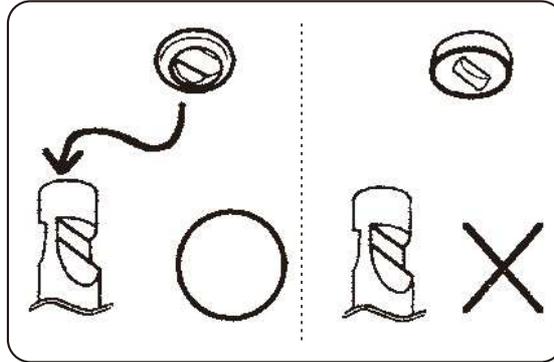
※ 端用、連結部用の吊金具を適切にご使用ください。



各部のなまえと取付方法 (続き)

6. 灯具の取付け

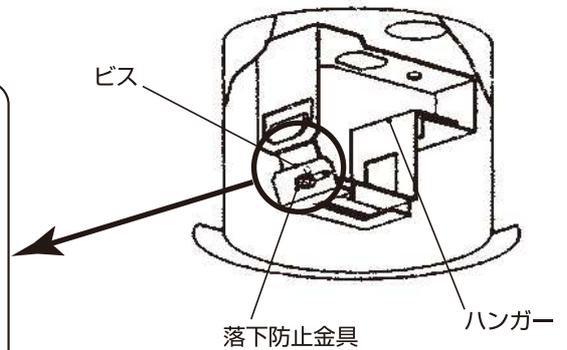
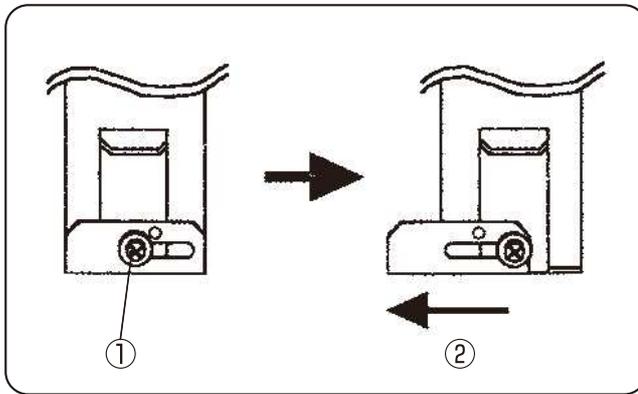
- 同梱のストップリングをパイプに通し、その後、カバーを通す。このとき、ストップリングの方向に注意してください。



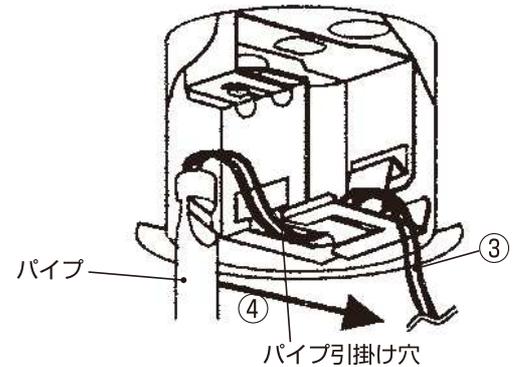
- 連結する場合は、端から順番に取付けてください。
(詳しくは、灯具の取扱説明書をご覧ください。)

- 下図にしたがい、ハンガーにパイプと灯具を取付けてください。

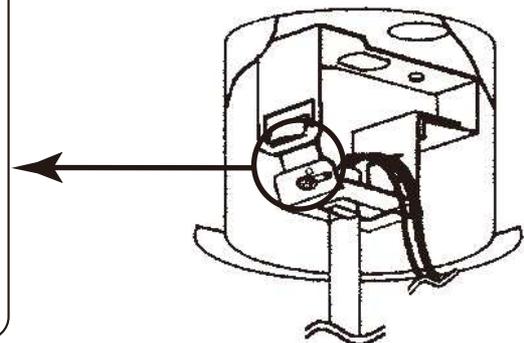
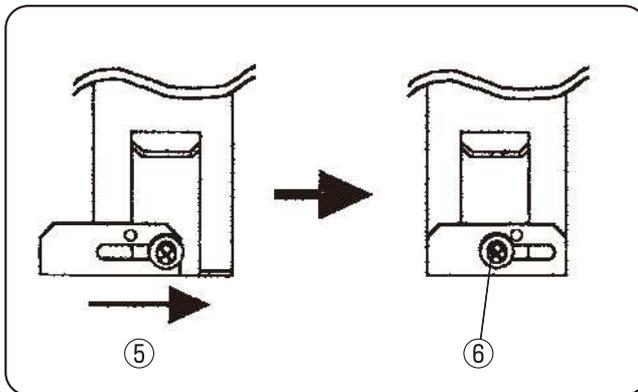
- ①ビスをゆるめて、
- ②落下防止金具をスライドさせる。



- ③ハンガーのパイプ引掛穴に電源線・アース線を通した後、
- ④パイプを確実に奥まで差し込む。



- ⑤抜け防止金具を元の位置にスライドさせ、
- ⑥ビスで確実に締め付ける。



不備があると、器具落下の原因となります。

各部のなまえと取付方法(続き)

7. コード・調光信号線の接続

- 同梱されている棒端子をコードの先端にかしめる。
 - 棒端子を灯具の端子台に接続する。
(詳しくは灯具の取扱説明書をご覧ください。)
- 接続が不完全な場合、火災の原因となります。
- コードと引込線の絶縁処理を確実に施して接続してください。
接続が不完全な場合、感電・火災の原因となります。
 - 調光信号線(別途)CPEV線φ0.9又はφ1.2×1ペアを
信号用端子台に接続する。
(詳しくは、灯具の取扱説明書をご覧ください。)

8. 電源線・アース線の接続

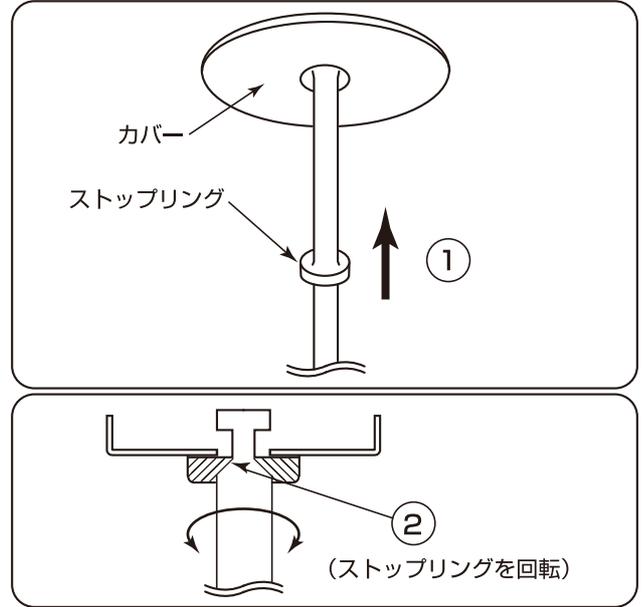
- 電源線・器具口出し線・アース線を接続する。
- 接続部の絶縁を確実にを行う。
- D種(第3種)接地工事が必要
- 口出し線の接続は、電気設備技術基準の省令第7条、および
同解釈第12条にしたがうこと。
- 口出し線の線種：ビニル絶縁電線

電源線の線径：0.75 mm² アース線の線径：1.25 mm²

警告 接続、保護が不完全な場合、感電・火災の原因となります。

9. カバーの固定

- コードを吊具本体に収納する。
- カバーを天井面に押しあて、ストップリングを押し上げ固定する。
- ストップリングの突起部とパイプの凹状溝部が一致するように
ストップリングを取付ける。



取扱説明

お客様へ、この説明書は必ず保管ください。

- ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

安全に関するご注意

警告

- 器具を改造しない。落下・感電・火災の原因となります。
- 万一、煙が出たり、変な臭いがするなどの異常が発生した場合、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼する。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

注意

- ランプ交換やお手入れの際は、必ず電源を切ってください。感電の原因となります。
- 照明器具には寿命があります。^{※1}3～5年に1回は、工事店等の専門家による点検を実施していただき、不具合がありましたら適切に処置してください。放置すると、火災の原因となることがあります。

※1 照明器具の寿命は、使用条件、使用環境によって異なりますが、一般的な目安は10年です。

お手入れ



注意

(必ず電源を切ってください。感電の原因となります。)

- 吊具の清掃について……………水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤でふかないでください。
変色・変質、強度低下による破損の原因となります。

パナソニック株式会社 ライティング機器ビジネスユニット 〒571-8686 大阪府門真市門真1048

お問い合わせ先 パナソニック 照明と住まいの設備・建材お客様ご相談センター

0120-878-709(フリーコール) 0120-872-460(FAX)

FT0305-051216